

2016年7月17日川越教会

父親の嘆き

加藤 享

【聖書】 サムエル記下 19章1節

ダビデは身を震わせ、城門の上の部屋に上って泣いた。彼は上りながらこう言った。「わたしの息子アブサロムよ、わたしの息子よ。わたしの息子アブサロムよ、わたしがお前に代わって死ねばよかった。アブサロム、わたしの息子よ、わたしの息子よ。」

【序】 新約聖書の序文

日本国語大辞典を開くと、「**仏**：悟りを開いた人、仏陀。 **神**：人間を超えた力をもつものと想定され、信仰の対象となる観念。キリスト教では、全知全能で愛をもち、宇宙を創造して支配する唯一絶対者」と記されています。

信仰を求めて聖書を読もうとする人は、たいてい**新約聖書**を開くでしょう。すると目にとびこんでくる言葉が「**アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図**」。そしてズーッと人の名前が続きます。そこで18節「**イエス・キリストの誕生の次第はこうであった**」から読み始める人が多いと思います。しかしユダヤ人は系図を非常に重んじたので、イエス・キリストの伝記を書くに当たっては、このように書き始めることがごく自然で、大切だったのです。

さて、イエス・キリストはアブラハムの子孫であるダビデの子孫として誕生しました。**アブラハム**は今から約4000年ほど昔、神から「**その子孫によって全世界を祝福する**」との約束を与えられたイスラエル民族の**族長**で、神の民イスラエルの出発点となった人物です。**ダビデ**は3000年ほど昔の人で、イスラエルの歴史上**最も偉大な王**。**王座が永遠に確立される**と神から約束されました。そこでユダヤ人は、民を救う**救い主メシヤ**は、ダビデの子孫から到来すると待望するようになりました。そしてそのダビデ王の子孫として、イエスが誕生したのでした。

【1】 **ダビデの信仰**

さて教会学校の分級では、6月から**ダビデ王**について旧約聖書サムエル記上の16章以下から学び続けてきました。イスラエルの歴史上**最も偉大な王**だと言われる**ダビデ**はどのような王だったのでしょうか。彼は最初の王**サウル**が皇太子ヨナタンと共に、ペリシテとの戦いで戦死した後を受けて、ヘブロンで**ユダ族の王**になり、7年半を過します。イスラエル12部族の内のユダ以外の11部族

は、サウル王の4男**イシュ・ボシエト**を王に立てましたが、彼が家来に殺されるとダビデに服することになり、彼は**イスラエル全部族の王**になりました。彼はそれから**33年間**イスラエル全土を統治しました（サムエル下5：1～5）。

彼は要害の地**エルサレム**に都を移し、神の臨在の象徴である**神の箱**を迎え入れました。**国土**はヨルダン川の東西に幅広くまたがり、北はレバノン山脈から、南は砂漠地帯に広がる**広大な領域**になりました。政治組織も整えられ、外交・通商も活発になり、**国は繁栄**し、国際的な色彩が強まりました。

ダビデの大きな**特色**は、主なる神に対する**深い恐れ**と単純な**信仰**です。彼の信仰は羊飼いをしている時に養われました。羊を襲う獅子や熊と杖一本で戦う中で、**神の守りへの確信**を体得しました。そこでペリシテ軍の大勇士**ゴリアト**との一騎打ちをかって出た時も、獅子や熊から守って下さった主が、この場面でも**同じ様に守って下さる**と信じて、杖と石投げを持つだけの**羊飼いの姿**で立向かい、**小石一発**で打倒してしまいました。サウル王に妬まれ、国中を追い回された時も、王を殺すチャンスが二度もあったのに、「**主が油を注がれた王**を殺すことは、主が御許しにならない」と固く信じて、逃げ続けました。

ダビデ王は、70年もの間田舎町の信徒の家に保管されていた**神の箱**を、都のエルサレムに運び迎えた時、着ていた祭服がほどけて身体が露わになっても喜び踊り続けました。8人兄弟の末っ子として家族からも無視されて羊飼いをしていた自分が、このように**王**にして頂いている——**神の不思議な選びと導き**、思いがけない**大きな恵みと守り**への**感謝**がこみ上げ溢れ出てきて、じっとしていられなかったからでした。また自分はレバノン杉の王宮に住みながら、神の箱は天幕の中に置かれているのは申し訳ない、神の箱の家もレバノン杉で建てようと預言者ナタンに申し出ました。しかしその必要はないと示された時の彼の祈りは、聖書の中で**最も美しい感謝の祈り**とされています（サムエル下7：16～29）。旧約聖書の詩編にも、ダビデの信仰の歌が数多く記されています。

[2] ダビデの弱点

その一方で、女性に対する**道徳感**となりますと、**一夫多妻**が世の習いだとはいえ、実に**だらしない生涯**を送っています。その典型的な例が**バテシバ事件**です。忠実な軍人ウリヤが戦いに出陣している間、都に留まっていたダビデは、彼の妻バテシバの美しさに惹かれて彼女を召上げ、子を身ごもらせてしまいます。何とかバレないように策を弄しますがうまくいきません。遂にウリヤを激戦地で戦わせよと司令官に命令して戦死させ、バテシバを妻の一人に加えて

しまいました。彼女は男の子を産みますが、神の裁きが下りその子は病死します。彼は老年になっても、その好色ぶりは衰えませんでした（列王記上1：1）。

また**息子たちの教育**についても、父親としては**失格者**でした。長男**アムノン**は、異母妹**タマル**に恋をして無理やり床を共にした後で捨ててしまいます。タマルは泣きながら母を同じくする3男**アブサロム**の家で暮す身になりました。父ダビデは激しく怒りましたが、何の処罰も下しません。そこでアブサロムが兄**アムノン**を殺して、国外に逃亡します。しかし3年後に軍司令官ヨアブの執り成しで帰国を許されましたが、やがてダビデの家来たちを懐柔して、ヘブロンで勝手に**王位につき**、エルサレムに攻め上りました。ダビデはヨルダン川の東まで逃亡しましたが、態勢を整え直して反撃に転じ、**アブサロムを戦死**させてしまいます。この時にわが子を死なせた父ダビデの**深い嘆き**が、今日の聖書の主題です。これについては、後で取り上げます。

4男**アドニア**は、10番目の弟**ソロモン**（サムエル下5：14）と、父ダビデの跡目争いをしましたが、ダビデがソロモンを後継者に定めたため、ダビデの死後に王となったソロモンによって殺されてしまいました。彼については「**父から、なぜこのようなことをしたのかと、咎められたことが一度もなかった**」と聖書は記しています（列王記上1：6）。

ダビデの息子はヘブロン時代に6人（サムエル下3：2） エルサレム時代に11人（5：14——歴代誌上3：5～8では13人と記す）誕生しましたが、**まとも**に成人したのは**ソロモンだけ**のようです。その行動が聖書に記されているアムノン、アブサロム、アドニアの**我がまま振り**を見ますと、彼らは父からの**厳しいしつけ**を受けていません。**仕事と浮気**に忙しくて、子育ては母親まかせで70才まで40年間王位に就いていたからでしょう。国王としては、イスラエルの歴史上最も偉大な王かもしれませんが、**子の親**としては**失格者**と言わざるを得ません。

[3] 情愛の深いダビデ

さて今日の主題は、自分に反逆した**3男アブサロム**が戦死したと告げられたダビデが「わたしがお前に代わって死ねばよかった」といって、身を震わせて泣き悲しんだ出来事です。アブサロムは何故死んだのでしょうか。

彼は妹タマルをなぶりものにした兄を父が罰しないので、兄を殺して国外に逃亡しました。**3年経つ**うちに、ダビデは長男アムノンの死を諦めて逃亡した

アブサロムの身を案じるようになりました。次男のキルアブは多分早死にしたのでしょう。3男のアブサロムが後継者ということになりますから、当然の心の動きだと言えるでしょう。家来ヨアブのとりなしでアブサロムは呼び戻されました。すると**野心家**の彼は、自分の方から王位継承の動きを始めたのです。ひそかに家来たちや民衆を惹きつけて味方にすると、**ヘブロンで王になったと勝手に宣言**しました。そして父に反逆して**エルサレムに攻め上り**、父を追い出したのです。

ダビデは命からがらヨルダン川の東まで落ちのびました。しかし態勢を整え直すと反撃を開始し、エフライムの森でアブサロム軍と対決します。でもその時になっても、ダビデは指揮官に「**若者アブサロムを、手荒には扱わないでくれ**」と頼んでいます。しかしアブサロムは戦いに負け、**あわれな死に方**をしました。ダビデはその報告を聞くや、**身を震わせて**、城門の上の部屋に上りながらこう言って**泣きました**。「わたしの息子アブサロムよ、わたしの息子よ。わたしの息子アブサロムよ、**わたしがお前に代わって死ねばよかった**。アブサロム、わたしの息子よ、わたしの息子よ。」

勝利に沸き立って帰ってきた兵士たちは、顔を覆い、大声で「わたしの息子アブサロム。アブサロム。わたしの息子。わたしの息子」と泣き叫ぶ王の姿に、すっかり**意気消沈**してしまいました。そこでヨアブが、厳しく非難しました。「王は今日、あなたの**家臣全員の顔を恥にさらされました**。あなたを憎む者を愛し、あなたを愛する者を憎まれるのですか」

国王としては、先ず勝利を喜び、兵士の働きを誉めたたえるべきでした。アブサロムは謀反を起こしたのです。そのためにダビデの兵士たちも多数死にました。**嘆くのなら**、わが子の故に死んだ兵士と家族のために嘆くべきでしょう。エルサレムを逃げ出した時には、ダビデも兵士たちも、顔を覆い、**はだしで泣きながら**、坂道を上ったのでした。そのような惨めな思いをさせた反逆者アブサロムの死を、どうして人前もはばからずに嘆き悲しんだのでしょうか。

ダビデは、理屈抜きに、**情愛の深い人**だったのでしょう。エルサレムから逃げ出す時に、サウル王の一族**シムイ**が口汚くダビデを呪い続け、石を投げつけました。家来がシムイを殺そうとした時、彼は止めました。「我が息子が私の命を狙っている。ましてサウルの一族が私を呪っても当然だ。主のご命令だろう」。ダビデがエルサレムに帰還した時、このシムイが土下座して赦しを乞いますと、ダビデは**あっさり**と赦しています。彼は誰彼となく、その人にとって良いと思

う道を進むように、対応しています。情愛の深い人だったのです。そしてそこが**多くの人を惹きつけて、長く王位を保つことが出来た**のでしょう。

【結】 光と闇を抱えて生きる

ダビデは、主なる神に対する深い恐れ、神の守りと導きを単純に信じ抜いて揺るがない**信仰の持ち主**でした。アブサロムに叛かれて、はだしで泣きながらエルサレムから逃げ出した時に、**シムイ**から口汚く呪われ続け、石を投げつけられました。彼を殺そうとする家来に言っています。「勝手にさせておけ。主のご命令で呪っているのだ。主がわたしの苦しみをご覧になり、**今日の彼の呪いに代えて、幸いを返してくださるかもしれない**」(サムエル下 16 : 11)。

羊飼いをしていた自分をこのように王にして下さって居る神の不思議な**選びと導き**、思いがけない大きな**恵み**への感謝に、躍り上がって喜び賛美し続ける**信仰の持ち主**でした。

しかし一方では、一夫多妻制の社会だったとはいえ、彼の**女性関係の乱れ**は、目をおおいたくなります。また息子たちの教育についても、**父親として失格者**です。仕事と浮気に忙しくて、子育ては母親まかせで、70才まで40年間王位に就いていたからでしょうか。

ユダヤでは歴史上最も偉大な王と評価されているダビデの、この際立った**長所と短所の混じり合った生き様**を示されて、皆さんはどの様に受けとめますか。私は、何回も読み返しては、偉いなあと感心したり、なんだこれは！と嫌悪感を抱いたりを繰り返していましたが、ハッとして、**自分もそうなのだ**という思いを抱くようになりました。

時代が違います。境遇も違います。でも教会住まいという境遇、牧師という職業に従事している恵みの中で暮しているとはいえ、この私自身の中にも、ダビデ同様に、**光と闇の二面**があるのです。でも神さまは、ダビデをその短所、罪の故に、**切り捨ててしまわずに**、70年も生きることを許して、**神の業**をおさせになったのでした。

ダビデは告白しています。「**いかに幸いなことでしょう 背きを赦され、罪を覆っていただいた者は**」(詩編 32 : 1)。彼は、自分の罪を示されたり、自分で気付いた時には、その**赦しを神に祈り求めた**のです。そして赦していただいて、再出発する。それを繰り返しながら、70年を生き抜いたのです。

私たちは、ダビデの子孫としてこの世に生まれて 30 年余の生涯を送られ、**十字架の死**を遂げ、墓に葬られ、三日目に**復活されたイエス・キリスト**を救い主と信じる信仰を与えられました。私たちは、自分の犯した罪を自覚したら、はっきり告白して、赦して頂き、祈りつつ、この私に与えられた**使命**を果たしています。あのダビデでも赦されて、あのよう生き抜いたのですから、神さまは必ず、私たちをも、**見捨てずに**、守り導いてくださるに違いありません。

未だ信仰をお持ちでない方は、先ずあなたに**命を与え**、なすべき**使命を与えて**、**導いておられるお方**、神さまをお信じください。**自分の罪**を示されたり、気付かされたならば、悔い改めて**赦し**を祈り求めてください。そしてくじけずに**前進していく力**を神さまから頂いてください。私たちは皆、**生き抜いて行かなければなりません**。

祈ります：神さま、新しい週の始めの朝、このようにあなたに礼拝する時をお与え下さって、有難うございました。ダビデは、際立った短所の持ち主でした。でもあなたは、その故に彼をお見捨てにはならず、あなたの御用をおさせになりました。私たちも、短所、欠点、罪深さを持つ者です。お赦してください。お見捨てにならずに、私がなすべき仕事・責任を果たせるように導いてください。あなたがお与えくださった命を、生き抜いていく者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン